

園芸タイムリー情報


《9月上・中旬版》

令和2年 9月2日発行 第8号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 9月の天気は数日周期で変わり、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。
- ①ハウスは日中の急激な昇温や夜温の低下に対応するため、換気やかん水などを適切に行い、生育環境の確保に努めましょう。
 - ②台風や暴風雨に備えて、被覆資材の補修、バンドの締め直し、支柱や筋交いの補強、ほ場の排水対策など早めに準備しましょう。
 - ③病害虫の発生には引き続き注意し、適切な防除対策を実施しましょう。
 湿度が高まると病害が発生しやすくなります。換気をこまめに行い、過湿状態の緩和を図りましょう。
 - ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	アスパラガス	
病害虫 生理障害名	食害で白くなったアスパラガス	
ヨトウムシ類		
発生状況	高密度で黒色化	
発生に注意		
発生時期	8月上旬～ 第2世代	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 今後、第2世代幼虫の発生時期なので注意する。 幼虫は擬葉を食害するが、大発生し擬葉を食へ尽くすと、茎や側枝の皮を食害するためアスパラガスのほ場が白く見える。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 防除適期を逸すると被害が拡大するため発生初期に確実に防除する。 大発生し被害が大きいほ場では、来年の春芽収穫が過収穫にならないように気を付ける。 <防除の一例> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫 生理障害名	キスジノミハムシ	
発生状況		
発生時期	6月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 気温の上昇に伴い、7月から成虫の発生が増加している。 8月上旬から特に被害が多くなっている。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●成虫期間：1～4ヵ月 ●卵期間：5～7日 ●幼虫期間：10～20日 ●蛹期間：3～15日 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 <防除の一例> <ul style="list-style-type: none"> ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回 ●チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫 生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況		
発生時期	5月下旬～	
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫による葉の被害 		

発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉裏に潜み、葉を食害する。 7月下旬以降、幼虫による被害が目立つので注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 防虫ネット（目合1.0mm）は、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。 シアミド系（プレバソンフロアブル5等）の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 	

作物名	あぶらな科野菜全般
病虫害生理障害名	ウスカワマイマイ
ナメクシ類 カタツムリ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月上旬～	チャコウラナメクシ
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ナメクシ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。 葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となっている。 雨天時や夜間は活発に活動する。 秋に発生ピークとなる傾向があるため、今後は注意が必要。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 常発ほ場では通気を良くして湿気を逃がす。 スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 	
<防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時	

作物名	メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	
アブラムシ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	6月上旬～
きゅうりのアブラムシ被害葉(左)とメロンの果実の汚れの発生(右)	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。 ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 	
<防除の一例> ●チェス顆粒水和剤 きゅうり：5,000倍 収穫前日まで 3回以内 メロン：5,000倍 収穫3日前まで 4回以内 ●モスピラン顆粒水溶剤 きゅうり：2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 メロン：8,000倍 収穫3日前まで 3回以内	

作物名	メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
中発生	
発生時期	7月上旬～
写真上：きゅうりの葉表に発生した白いかび 写真左：株全体に多発した様子	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。 例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。 過繁茂になると発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発を確認したら薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 	
<防除の一例> ●アフエットフロアブル メロン：2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 きゅうり：2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●プロパティフロアブル メロン、きゅうり： 3,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内	

作物名	メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
中発生	
発生時期	6月上旬～
きゅうり メロン	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも増殖が早い。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 	
<防除の一例> ●ダニトロンフロアブル メロン：1,000～2,000倍 収穫前日まで 1回 きゅうり：2,000倍 収穫前日まで 1回 ●モメントフロアブル メロン・きゅうり：2,000倍 収穫前日まで 3回	

作物名	きゅうり	
病虫害生理障害名		
病名	べと病	
発生状況	中発生	
発生時期	7月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、古くなると褐変する。 • 褐斑病と良く似ているが、べと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。 • 曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 • 発病初期に防除を開始する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リドミルゴールドMZ 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●フロボーズ顆粒水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	きゅうり	
病虫害生理障害名		
病名	褐斑病	
発生状況	中発生	
発生時期	7月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 • べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 • 生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月に多発する。 • 成づかれにより、草勢の衰えている場合に多発しやすい。 • ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことがあるほ場では特に注意が必要となる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 適正管理で草勢を保つとともに、積極的な換気を行いハウス内湿度を高めないようにする。 • 昨年発生したほ場では、予防防除を行う。 • ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 • 薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤は連用しない。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ベルコート水和剤 2,000倍 収穫前日まで 7回以内 ●ゲッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 5回以内 		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害生理障害名		
病名	灰色かび病	
発生状況	微発生	
発生時期	8月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 発生は目立っていないが、気温の低下する今後の発生に注意する。 • 20℃位のやや低温と多湿で多発し、特に多湿条件や植物体が濡れている状態が続くことが発生に影響する。 • 高温期に果実に感染するとゴーストスポット症状となる。 • 枯れた花弁、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 換気を心がけ、必要に応じて下葉を摘除し通気性を確保する。 • 夜温が低く果実が冷えた状態で、ハウス内の温度が急激に上昇すると果実が結露し病害の発生を助長する。夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝から換気を行うことで結露を防止する。 • 夕方の薬剤防除や葉面散布は避け、晴天日の早朝に行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1,000 1,000倍 収穫前日まで トマト（果径3cm以上） 4回以内、ミニトマト 2回以内 ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害生理障害名		
病名	トマトサビダニ	
発生状況	少発生	
発生時期	7月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> • 初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の莖葉や隣接する株に広がる。 • 葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。莖はほこりを被って汚れたように褐変し、果実はくすんだようなさび症状となる。 • 高温乾燥時に発生が増加する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> • 高温期は増殖が早いので発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※上記の剤は浸透移行性がないため、発生している株や周囲の株に葉裏等までまんべんなくかかるよう丁寧に散布する。</p>		

作物名	パセリ
病害虫生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
少～中発生	
発生時期	
8月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 気温28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。 8月上旬以降、発生が見られるので注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 	
<p><防除の一例> (発生前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クリーンカップ 1,000～2,000倍 収穫前日まで ー ●クムラス 500～1,000倍 ー ー <p>(発生前～発生初期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内 	

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん
病害虫生理障害名	 
アブラムシ類	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> モモアカアブラムシとワタアブラムシの発生が見られている。 気温の高い日が続いているため飛び込み後の増殖が早く、莖葉が黒く汚れたように見えるすす病の発生が見られている。 モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄で、下葉の葉裏に多く見られる。 ジャガイモヒゲナガアブラムシはやや大型で、上位葉への寄生では葉の変形や黄化が見られる。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> マルチに落ちた白いゴミのような抜け殻や甘露(べとべとした排泄物)、莖葉のすす病を手がかりに発生を見逃さないよう努める。 	
<p><防除の一例> カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF ピーマン 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●チェス顆粒水和剤 3品目共通 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>カブリダニ類の導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●モスピランジェット ピーマン 50g/400ml (床200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 2回以内 	


作物名	ピーマン・ししとう・なんばん
病害虫生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 天敵を導入していないほ場での発生が見られている。 葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。 密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみの使用が望ましい。 	
<p><防除の一例> カブリダニ類導入時に使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マイトコーネフロアブル ピーマン 1,000倍 収穫前日まで 1回 ●スターマイトフロアブル ししとう 2,000倍 収穫前日まで 1回 <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 3品目共通 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●粘着くん液剤 ししとう・なんばん 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 	

作物名	ピーマン、ししとう、なんばん
病害虫生理障害名	 
ヨトウガ・オオタバコガ	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 8月下旬からピーマンでヨトウガの第2世代幼虫が発生している。 ヨトウガは初め幼虫が集団で葉を食害する。成長に伴い分散し、食害量も増加する。 オオタバコガは飛来性害虫で、既に発生が確認されている。幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 成長した幼虫には薬剤が効きづらいので、発生初期に防除を行う。 	
<p><防除の一例> カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プレオフロアブル 3品目共通 タバコガ類 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●プレバソフロアブル5 ししとう・なんばん オオタバコガ 1,000～2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アファーム乳剤 ピーマン オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 	

作物名	ピーマン	
病虫害 生理障害名		
菌核病		
発生状況	茎葉での発生	
微発生	果実での発生 ほ場ではかびは見られないことが多い	
発生時期	6月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 夜温の低下と共に再び発生が見られ始めているので今後の発生に注意する。 20℃以下の多湿条件で発生しやすい。 茎に発生した場合は、発生部位から上の茎葉が萎凋枯死する。 果実では褐変腐敗し、幼果では腐敗落果する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多湿が多発の原因となるので、ハウス内の換気に努め、茎葉が繁茂している場合は下葉を除去するなどして通気性を確保する。 茎葉の濡れは、夜間よりも日の出後の気温上昇に伴う結露によるので、夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝に換気を行う。 		
<防除の一例> ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ●ロプラールくん煙剤 100g/300～400ml (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内		

作物名	花き類全般	
病虫害 生理障害名		
ハダニ類	きくに寄生した状況(葉表)	
発生状況	支柱内部に集まった成虫	
少発生		
発生時期	6月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 今後、かん水制限を行う時期なため、発生が多くなってくる。 発生初期は葉表に白いかすりや退色を生じるが、密度が高くなると葉は褐変、黄化する。 スターチス・シヌアータでは下葉が赤くなる。 発生ほ場の管理作業により衣服に付着し、他ほ場へ拡散、被害が拡大する。 日中暖まった支柱に集まることが多い。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除に努め、葉裏に十分かかるよう散布する。 		
<防除の一例> ●アグリメック 500倍 発生初期 5回以内 ●サンクリスタル乳剤 600倍 — — ●ペンタック水和剤 1,000倍 — — ※ペンタック水和剤は施設栽培のみ		

作物名	花き類全般	
病虫害 生理障害名		
灰色かび病	脇芽摘除部より発病(きく)	
発生状況	がくの退色(シヌアータ)	
中発生		
発生時期	7月中旬～	
発生の状況・要因		
<現在の発生状況> <ul style="list-style-type: none"> きくでは、わき芽を取り除いた跡や摘蕾跡から感染する。 スターチス類はがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。 今後、結露や降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気、通気性の改善 きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。 かん水間隔を空ける。 罹病部位の摘除と定期的な防除を行う(7日間隔)。 		
<防除の一例> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 発病初期 5回以内 ●セイビアフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内		

作物名	花き類全般	
病虫害 生理障害名		
灰色かび病	脇芽摘除部より発病(きく)	
発生状況	がくの退色(シヌアータ)	
中発生		
発生時期	7月中旬～	
発生の状況・要因		
<現在の発生状況> <ul style="list-style-type: none"> きくでは、わき芽を取り除いた跡や摘蕾跡から感染する。 スターチス類はがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。 今後、結露や降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気、通気性の改善 きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。 かん水間隔を空ける。 罹病部位の摘除と定期的な防除を行う(7日間隔)。 		
<防除の一例> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 発病初期 5回以内 ●セイビアフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内		

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
- なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

※掲載されている農薬情報は、令和2年8月26日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【農作業事故防止編】□■□■□■□

— 農作業事故防止は日頃の安全確認から —

- ・機械の点検や清掃、異物除去などを行う際は、機械を完全に停止し、安全を確認した上で点検・調整を行いましょう。
- ・ほ場や作業道、施設等に危険な場所がないか、日頃から確認を行いましょう。
- ・危険を伴う作業(高所作業等)を行う際は、安全を確保するための適切な服装・装備を着用し、安全確認を必ず行いましょう。
- ・作業はできるだけ2人以上で行うか、定期的に声かけや異常がないか確認し合いましょう。離れたほ場で作業をする場合は、あらかじめ、作業ほ場を家族等に知らせましょう。